

## 国際協力特別賞

足元から見つめよう

学校法人 コングレガシオン・ド・ノートルダム 明治学園中学校 3年  
杉尾 あかり

今までこんなに虫のことを気にかけてことがあっただろうか。虫と私たちとの未来の関係について考えたことがあっただろうか。

はじまりは、夏休み中の部活の帰り道。いつものように友達と歩いているとトンボが道端で大量に死んでいるのを見つけた。あまりの死骸の量に驚いた。友達と、この暑さにトンボも耐えられなかったのだらうと話した。

数日後、母が「クワガタを助けた」と言う。テレビを見て「虫を助けなければ」と思ったところへ、たまたま瀕死のクワガタに出くわしたらしい。

その番組は、子供向けの昆虫を取り上げたものだった。最初は、たかが虫のことなんて、と横目で見ていたが、すぐに引き込まれてしまった。そして、この「たかが虫のこと」という私の言葉こそが地球環境を悪化に追いやっているという、恐ろしいものだった。世界の各地で昆虫の急激な減少が報告されているというのだ。これには、いくつかの原因があげられる。都市化や大規模農業・農薬による虫の住む場所の減少や地球温暖化による生態系の変化などである。

私は、先日のトンボの大量死のことを調べてみた。すると、暑さのせいだけでなく、豪雨に打たれ衰弱したかもしれないとあった。どちらにせよ異常気象は、人間が引き起こしていることには違いない。

世界中の生物学者達がこのままでは地球が危ないと警鐘を鳴らしている。なぜかというと、昆虫は食物連鎖の一番根底にあるからだ。ここが激減すると、それを食する小動物や、更に小動物を食する大型動物まで影響が及ぶ。そして、もう一つ。昆虫は、花粉を運び果実を実らせ種を作る、無くてはならない存在なのだ。昆虫がいなくなると、私達の食卓には、野菜や果物も魚や肉もなくなる。衣類も同じ。綿も羊毛も絹もなくなり、化学繊維のみとなる。そんなこと、考えたこともなかった。「虫なんて」と思っても「虫のおかげ」などと思ったことは一度もなかった。

「昆虫カタストロフィ」は、「人類カタストロフィ」につながると言っていた。まさにそのとおりだ。先日目撃した大量のトンボの死骸を思い出すと、私達人類もそうなるのではないかとゾッとする。人間が便利に合理的にしようとはじめたことが、まさか地球環境を破壊し自らの生命を脅かすことになるとは。私は今まで、地球環境を破壊するようなことはしていないだらうと思っていた。しかし、大事な役割を果たしている虫のことを普段何にも意識せずに過ごしている自分は、十分に地球環境を破壊し得ると気づいた。

よりよい世界の未来を目指すならば、まずは、自分の足元の小さな異変や問題を意識することからはじめるべきだと思う。ほんの小さなことかもしれないが、その「小さなこと」にいち早く気づき見逃さないようにすることが、世界のそして地球の問題の解決につながると思う。